

夢や目標を持って宇都宮にやってきた人たちに宇都宮のイイトコを聞きました。

大谷石造形作家を目指す吉田綾子さん

大谷アカデミー

大谷石の石工の跡継ぎを育成するために講座が開かれると聞き、何も分からないまま昨年4月に大谷アカデミーに飛び込みました。それから週2回約90回の講座に市外から宇都宮まで通い、今年の春に卒業しました。

大谷石は、他の石にはないぬくもりがあります。また、呼吸をする石とも言われ、一つひとつ表情が違うことも魅力です。宇都宮の人にとっては、身近な生活に溶け込んでいて気付いていないかもしれませんが、大谷石は世界に誇れる素晴らしい素材だと思います。

今後はアカデミーで培った技術をさらに磨いて、大谷石の魅力を世界に発信できるよう活動していきたいと考えています。

◎吉田さんは、6月12日(金) 正午～午後0時49分エフエム栃木「宇都宮プライド 愉快なラジオ」、6月14日(日) 午前10時30分～10時40分とちぎテレビ「井上マーの教えてイイトコ宇都宮」(再放送)に出演します(48ページ参照)。併せてご視聴ください。



▲吉田さん(左)と渡邊哲夫さん(右)。「テレビの特集番組で、渡邊さんの石工の匠としての技術に感動したことが、大谷に着かれた最初のきっかけでした。実際にお会いすると、すごい人なのに気さくに接し、指導してくれる、とても温かい人です」と話します。



▲東京をはじめ市外から通うアカデミーで出会った仲間たち。みんな大谷愛にあふれていて、熱い人たち。どうすればもっと大谷石やまちの魅力を伝えられるか、夢を話し合いながら、活動も始めています(欄外参照)。

乗ってみよう 地域内交通

■「清原さきがけ号」の導入に至るまで 清原地区では、バス路線の廃止や運行便数の減少が進む中、地域住民の移動手段を確保するため、平成17年から清原地域振興協議会が中心となり地域内交通の検討を始めました。そして、特に要望が強かった清原台エリアでの先行導入を決定し、平成20年1月に本市初の地域内交通となる「清原さきがけ号」の運行を開始しました。

■運行概要 「清原さきがけ号」は、9人乗りのジャンボタクシーを使用し、ゆいの杜・清原台・氷室町(光ヶ丘)・清原地区市民センター間を路線バスと同様に時間・ルートを決めて運行しています(定時定路方式)。

■清原さきがけ号

- ▽運営主体 きよはら地域内公共交通運営協議会。
- ▽運行日 毎日(年始除く)。
- ▽運行ルート ゆいの杜～清原台～氷室町(光ヶ丘)～清原地区市民センター。
- ▽運行便数 1日7便(午前8時台～午後6時台)。
- ▽料金 1回150円。定期券(1月当たり)=2,000円、回数券(8枚つづり)=1,000円。
- ▽その他 運行内容など詳しくは、市ホームページをご覧ください。清原地区市民センター☎(667)5696へ。



▲新車両の「清原さきがけ号」

今回は、地域組織が運営主体となり運行している地域内交通のうち、清原地区で運行している定時定路型の乗り合いタクシー「清原さきがけ号」について紹介します。

■地域に密着した運行 運行ルートや停留所の設定に当たっては、住民アンケート調査などによる地域ニーズを踏まえて設定しています。運行開始後もきめ細かい運行ルートへの変更や停留所以外でも自由に乗り降りできるフリー乗降制の導入など、より利用しやすいものになるよう見直しに取り組んでいます。

「清原さきがけ号」は、買い物や通院など日常の移動手段として利用されている他、地区文化祭・農業祭に合わせて臨時便を運行するなど、地域まちづくりを支える交通として活用されていて、毎月約650人が利用しています。



▲地区文化祭・農業祭



きよはら地域内公共交通運営協議会 古澤 勝司さん

地域と行政が一体となってスタートした「清原さきがけ号」も早8年目を迎え、今年1月には乗車人数が7万人を超えました。超高齢社会を迎え、地域の足としてますます必要とされるこの事業。皆さんに愛されるよう鋭意努力を進めていきます。

週に1回、整形外科に「清原さきがけ号」で通院しています。乗り合わせた人との会話が楽しみになりました。運転手さんも親切で、さきがけ号は年を重ねた自分にとって本当にありがたい交通手段です。



利用者の声

☎交通政策課☎(632)2132

◎大谷石を楽しもう ■会場 宮カフェ(江野町)。1ワークショップ ▽日時 6月27日(土)・28日(日)、午前11時～午後3時▽内容 大谷石アカデミー卒業生による、大谷石を使ったミニ積み石アート作り▽費用 700円～(材料費など)。2大谷石細工展示 ▽期間 6月20～28日▽内容 大谷石アカデミー卒業生の作品展示。☎広報広聴課☎(632)2129